



9月定例会

一般質問 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	2
委員会報告 • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	8
議案一覧	12







であり、住民からも重大な関心と期待を持たれる大切な 議員活動の場です。15名が行い、当局の考え方をただしました。

登録へ向けての取り組み 韮山反射炉の世界遺産

規模と進捗状況は、 ガイダンス施設の内容

九州山口の近代化産 反射炉の歴史、意義、

模で、平成二五年度に実施設 像、模型を使って分りやすく 紹介する施設。約五〇〇㎡規 業遺産群との関係などを映

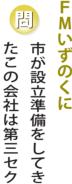


事に着手する。

計を行い、平成二六年度に工

組みは。

官民で知恵を出して いきたい。



ターか、今後の運営については。

会社として、経営状況の点 検評価に努めていく。 ○%を市が出資している している。全資本金の 第三セクターと認識 くのか。

反射炉

地元説明については。

問

観光関連事業について

内田隆

久

既に何回か説明会を開

イン整備等で対応する。 交通渋滞対策に対しては、サ 元と協議をしながら進めたい。 催している。今後も地

れない場合の整備は。 世界遺産の認定がさ

えるために整備は実施する。 経済効果を上げる仕 公の功績を後世に伝 認定に関係なく坦 庵

る委員会を、速やかに設置し ます。若い世代を含めた高齢 担や施設の運営などを検討し 政の観点などから、利用者負 他の施設とのバランス、行財 用者の状況、サービスの内容、 料にしてきました。しかし、利 者施設等のありかたを検討す ていく必要があると考えてい

地区敬老会は地域主催 でこれからも続けてい

年々、地区での敬老会

を開催するところが増

て検討していきます。

伊 豆の国市医療救

医療機関との連携は、

して、災害時における

地震対策の取り組みと





高齢者温泉交流館

施設の有料化について 高齢者利用市内温泉 佐野之

についての市長の考えは。 している温泉三施設の有料化 以上の方が無料で利用 市内在住者で、六〇歳

重要な施設であり、今まで無 高齢者の福祉にとって 高齢者の温泉施設は

圕

うがよいと考えています。 老会を、市として支援するほ を重点的に実施したほうがよ 区が実施し、自治会等の主催 え、平成二一年度には三三 た。こうしたことから地区敬 いとの意見も多く出ていまし 地



災害に強い 森林造りについて

杉尾利治

落防止の植栽が必要では キ林斜面は、河川の土砂を除去 われる。『自然回復』ではなく崩 したのみで、再び崩落すると思 落した長瀬川上流ヒノ 平成十六年の台風で崩

は水。すぐに検討して取り組 が整ったとはいえ、怖いもの んでいきたい。 八億円かけて戸沢川整備事業 は常に心していた。四



た戸沢川支流

対策について 戸沢川水害とその後の

その後、諸対策が行われたが その結果は。 上浸水も百十六戸にのぼった。 で、旧伊豆長岡町地区では床 造 二号による被害は甚大 平成十六年の台風二十

で内水被害は発生していない。 な事業を実施した結果、現在ま 就学援助制度への影響に 生活保護費減額の与える 戸沢川治水対策委員会 を立ち上げ、さまざま

災害と森林ということ

た、今後どのような影 制度利用の現状は。ま

響が出るのか

準の緩和を検討したい。 響が予想される場合は認定基 保護費減額の影響はない。影 基準額の一・三倍以下。現在 は百七十人。認定基準は保護 就学援助認定世帯は 十七世帯、児童生徒数 百

生ごみ堆肥化は 家庭の生ごみにも拡大を 三好陽子

肥化も推進すべきではないか。 ごみ減量のためにも、全世帯対 給食センターや旅館から出る 象で家庭から出る生ごみの堆 生ごみを堆肥化している。焼却 堆肥化施設を建設し、 平成二二年度に浮橋に

化を図りたいが、牛糞の確保や ある。将来的に市内全域の堆肥 さらに下畑・田中山・長者原・山 施設の拡大が必要となる。 木・千代田地区へも拡大予定で 生ごみを回収している。 現在、浮橋地区の家庭の

ついて

学校図書館司書の増員を

べきではないか。 進のためにも、各校に配置す となっている。読書活動の推 名減らし、現在は四校が兼務 二一年度から図書館司書を二 に努めてきた。ところが、平成 書館司書などを配置し、充実 いちゃん先生・学習支援員・図 学校に市単独で、おじ 合併前から、幼保小中

の要望も承知しており、検討 ため二名削減した。全校配置 していきたい 時に、歳出削減を行う 平成二一年度予算作成



にも、定着した制度として継続 となり不公平感をなくすため なかった市民も将来、利用可能 化や、制度を利用でき 市内業者の仕事の安定

農土香

する必要があると考えるが。

続は考えたい。 るが、金額や率を下げての継 七年度までと考えてい 当制度としては平成一

策はどこまで進んだのか 耐震性の低い韮山庁舎への対

が、耐震化の計画は 用六億円)が必要とのことだ と、相当な補強(概算費 耐震診断の結果による

方向性が決まれば議会に報告 と支所のありかたを検討 しい。韮山支所を含めた本庁 し、ご意見を伺いたい。 が掛かるので補強は難 耐震化には高額の費用 中



韮山庁舎

学童保育四年生以上も 保育料の値下げ、〇歳児保育、

実していくべきではないか。 子育てしやすい市にす るために、支援策を充

む方法を検討していく。 成二七年度開始に向け準備す 大するが、予算を掛けずに済 る。学童保育は四年生まで拡 していく。ゼロ歳児保育は平 減額すべき金額を算定 保育料は近隣と比較し

業予算の 見直しについて 水口哲雄

だと考えるが。 大事で公開の場で行うべき 公正、平等、クリアな手法が 間 事業計画の見直しは、 前市長が打ち出した

予算措置されているものにつ 整合性を考慮して判断します。 見直しについては、総 合計画や所信表明との

いては、議会の議決を尊重し ます。公開の場での見直しは

ては。 芸能会館の建設につい

報の提供を進め、経営の安定化

子供が夢を持てるまち

に協力していきたいです。

後も引き続き行政情報や観光情

市が主体として設立しま

したが、民間法人です。今

考えていません。

ります。そのまま実施するこ これに関連する業者に は凍結すると伝えてあ

子供が夢を持てる

とはないと思います。 大北採石場跡地のサッカー

ビレッジ構想については。

ラウンドは造りません。 あの場所にサッカーグ

をすべきだと思うが。 を付けて、行政として支援 対して、期間等の条件 「FMいずのくに」に



Mいずの <

の発信力は不十分ではないか。 力を合わせて発信していきたい。

どう進めていくのか。 男女共同参画への取り組みを 本市は女性管理職が少ない。 昨今女性の活躍は目覚 ましいものがあるが

状況に置かれているから。男 管理職を希望する女性 が少ないのは、不利な

> 性の意識を変えるなど環境を 応じて登用していく。 整え、男女の区別なく能力に

育てていくのか。 るが、本市の子供たちをどう 力、経験、郷土愛が必要と考え づくりのためには、学

れた観光資源があるが、内外へ 指している。本市には多くの優 炉も世界遺産の登録を目 それなりに誘客をして いるが、今後さらに官民 富士山に続いて韮山反射 まちづくり 梅原秀宣 全国学力テストについ ては分析した上で授業

郷土愛を育んでいきたい。 掛かっており、それを通して 郷土を学ぶ教材の作成に取り な取り組みをしていく。また り組む必要があり、さまざま 家庭、地域が一体となって取 を担う子供の育成には学校 に生かしていく。本市の将来



明るい未来を

花を活用した 観光事業について

柴田三智子

うようなことを観光事業の一 文化遺産の富士山を見てもら を利用してワイルドフラワー つとして検討してみる考えは。 の花畑にし、その中から世界 時代劇場から蛭ヶ島公 園の歩道周辺の田んぼ

を含め興味深い内容であるの フィールドフラワーシティ するには課題があるが 期しかできない。早急に実施 するには年間の内限られた時 で検討していきたい。 (田んぼの花畑都市)は、提案 この地域の田んぼは現 在耕作地であり、利用

子育て支援事業について

り組みを考えているのか。 りについて、何か具体的な取 男性職員が育児休暇を 取得しやすい環境づく

をしていきたい。 度を取得しやすい環境づくり ている。今後、男女共に育休制 育児参加についてサポートし ではない。しかし、育休以外の 色々な制約があること から取得しやすい環境

直す考えは、 保育園に入所希望の母 親の求職活動期間を見

ので今後前向きに検討して で就労できない場合もある 入所申請者の中には一ヶ月 近隣においては概ね ケ月である。しかし、



保育園

中学校の結果

国語A、国語Bは一~二ポ

全国学力テスト結果の

山下孝志

いるが、その理由は何か。 問 すべきではないとして 市長、教育長とも公表

その学校の学力レベルと捉え うな指導が横行し、点数至上 主義を助長することになる。 学力の把握しかできない。 また、学校ごとの平均点が 類似問題を反復練習するよ 内容の一部についての 国語、算数、数学の学習

ことになってしまうため。 の取り組みは。 結果を踏まえて、今後

られ、学校を序列化していく

分析委員会を立ち上げ 対策を講じていく。

ピロリ菌感染のABC

みたいと思います。

全国平均に対する市内小・

イント下回る。算数Aは

は全国平均と同じ。 ポイント強上回り、算数B

度上回る。 国語A、国語Bは二ポイン ト、数学Bは三ポイント程 ト程度、数学Aは一ポイン



ピロリ菌検査の料金助成 について

について市の考えを伺う。 血液検査によるピロリ 菌抗体検査費用の助成

○○○円程度になる予定。 は、三五歳以上の住民で、二分 用の一部を助成する。対象者 の一の助成で、自己負担は、二 検査を導入し、検診費

保護司について

柴田三敏

町との比較については。 市からの補助金、近隣市

市からの大仁地区保護

を上限として、申請に基づき 助金も同額で、差はありませ 状況としては伊豆市からの補 更生保護事業補助金交付要綱 の補助金の額は、伊豆の国 万円となっています。合併 万九〇〇〇円、合併後が二五 金については、合併前が五 ん。他の市町の状況を調べて 決定しています。近隣市町の に基づき、事業費の二分の 司会への補助金、負担

力については 行政・市民の理解・協

ろ広く活動していただいてい ることは認識して感謝してい 実現するためにいろい 安全、安心な暮らしを

第一次総合計画後期計画で

をご理解ください 慎重にならざるを得ないこと いきますが、募金については 活動へは積極的に協力をして ます。市としては、保護司会の



観光農業基地 農の里

鈴木平一

郎

観光農業基地「農の里 農業と観光を融合した

構想についてのお考えは。

らないことは確かです。 持ってやっていかなければな ませんが、こういう構想を やっていくかどうかはわかり です。「農の里」という名前で 「農の里」構想について は、まだ、耳新しいもの

は、認定農業者が新規就農者の

くものと考えています。 野に主体的に関わる六次産業 加工や流通等のさまざまな分 観光農業、農業者が生産以外の 業に触れ合える体験型農業や 育成に努め、市民や観光客が農 交流型観光農業が実現してい こととしています。それにより 化等、魅力的な農業を展開する 「農の里」のコンセプトである



韮山の田園風景

議会基本条例と 行政評価 は

後 機員

間 議会との協力・協議の 基本条例具現化のため、

考えは。

説 求めがあれば、誠実に 明を尽くす考えで



ついて

ある。

急傾斜地

崩壊対策工事に

委員会を開催する。 一一月に事業評価

するのか。

えてどのようにこれから対処

斜

、地がある。災害に備

市内には数多くの急傾

龍城山の黒松伐採は

냽 指示は。 黒松伐採の根 拠と

遺構調査と景観整備と

記録。 関係者との和解内容

間 は。

和解はまだない。委員

をしたい。 会を設置し、 詳細調査

第三セクター(F に)と市の責任は M いずのく

責任分担の契約はある

契約はない。 のか。

れる、赤字等への対策は 過去の事例から危惧さ

※「シェイクアウト防災訓練」とは

アメリカで考案された大規模な 地震防災訓練。さまざまな人たちがさまざまな場所で、災害シナリオに基づき、指定された開催日時

に同時に机の下にもぐり身を守

基本的に、出資額(一〇

と考えている。 ○○万)の限定責任だ

造 FMいずのくに」の

業状況は。

直近で九二五万円ほど

の支出超過

路の説明をする」マニュアル

を守る一分間の避難経

イベント開演前に「

命

す。優先順位を定め、市民生活

傾斜地が六ヶ所ありま

市内には対象となる急

`安全・安心を図るため、急傾

斜地事業を積極的に進めてい

きたいと考えています。

究したい。

化は。

災との連携を図る。

の見直しは。 る・動かない)訓練と生活環境 シェイクアウト防災訓練を 問 初動基本動作(低く・守 自助力・減災力向上に、

> 災害・防災対策について 大規模な公共施設の

小澤五月江

身体で防災を覚えてい ることは大切だが、研

自主防災との連携強

効果的な訓練と自主防

装置に換えた。



る訓練をすること。

その時の対応とその後の改修は ラーの誤作動の原因は 長岡総合会館スプリンク

者がした。改修は感知器の温 難誘導は会館スタッフと主催 度を変更し九六度で作動する 劣化によるもの。その時の避 きりしていないが経年 誤作動の原因は、は

アクシスかつらぎ大ホール

を義務化すべきでは。 を導入し、必ず放送すること

切なことなのですぐに実地する。 あったと思う。本当に大 確かにそれは盲点で 長岡総合会館·韮山文

サートを実施すべきでは については、無料避難訓練コン 〇〇人以上。大規模な公共施設 年度利用者総数は、一三万五〇 化センターの平成二四

ので必ずやると約束する。 避難誘導についてはき め細かい訓練が必要な

緊急地震速報について

でした。

鈴木照久

問 報への市の対応は、 八月八日の緊急地震速

受信しました。直ちに市役所 中 出張の帰路、公用車の ・で、緊急地震情報を

、電話連絡し、 状況を確認し

後職員への指示は特に行って 連絡がありましたので、その おらず、また、国・県からの指 示もありませんでした。 ほどなく、誤報である旨の



周 市民への広報は

る同報無線の放送はしません たので、自動起動によ 予報震度が四程度でし

周知は今後の課題であります。 までが四七秒という短時間で あったとはいえ、来庁者への 速報発表から、主要動到達

堂川及び用水路の「魚類」の 大量死について 固 「魚類」大量死の原因は

堂川の長崎地域の魚類 大量死は、雨量が少

> かけていきたい。 欠乏が原因と考えられます。 なり、猛暑による河川の酸素 り、更に、農業揚水休止時と重 で、今後も関係諸団体に働き 質悪化の抑制が期待できるの なく、淡水が少ない状態にあ 流水は、自浄作用があり、水 地域通貨について 組んでいきたい。 来年度の定期の人事異動では 活用ということもあるので、 して、少し広い視点から取り 総務企画部にスタッフを配置



堂川

域通貨の検討は大事。研究と われる。今の時代に合った地 は行われてきているものと思 いろいろな形で少しずつそれ 健康福祉課で行ってい るマイレージ制度とか

流通の汎用性は高いと思うが。 みをつくることではないか。

局齢者支援策について

問 要支援者に対する援助 など、在宅医療・介護の

経済振興策について

天野佐代里

現状は。

センターを二カ所設置して 心的機関として地域包括支援 人、相談件数は三七九五件。中 護認定者数は二〇〇八 平成二四年度末の要介

問

状と今後の取り組みは。

企業誘致についての現

あり、また未利用地の 全庁的に関係する課が

> 区に増やしていくことが望ま 計画の中で中学校圏域の三地 で受けている。今後、介護保険 高齢者の相談をワンストップ しいと思う。

の導入についての考えは。 た、高齢者支援サポート制 子育て支援ファミリー サポート事業を応用し

経済の活性化とは、人・

もの・お金が回る仕組

スなども含めて、サポートす のサービスやシルバー人材セ た「御用聞き」をはじめ、既存 る仕組みを作っていきたい。 ンター、民間事業者のサービ 県内では二市が行って いる。施政方針で述べ



韮山福祉・保健センタ

9月定例会で行われた、平成25年度補正予算をはじめとする審議内容に ついての各常任委員会の報告です。



どの公共施設への個別無線機 との関連は、 事業で、各公民館や小学校な ■デジタル行政無線機器整備

と考えている。 備していかなければいけない えない中で、戸別受信機を整 六一%程度の範囲でしか聞こ 「FMいずのくに」が市内の

ころです。 のかを、検討し始めていると タル波のどういうものがいい いるので、アナログ波とデジ 今はいろいろな種類が出て



防災行政デジ タル無線機

対策の成果については

率も上げておかないと、全体的 とはなっていない。現年の徴収 切って、八億円台になっている には厳しい状況でした。 が 平成二四年度は十億円を 、滞納繰越分の徴収率の上昇

■財政調整基金については。 向こう十年ぐらいの間に地

務

委

会

額などがあり、積立額は減って いかざるを得ない。もっと厳し 方交付税の合併算定替えの減 い状況になると思う。

■コンビニ収納導入の効果は。

年度初めて軽自動車税に導入し コンビニを利用した。 た。その結果は大体出ている。 平成二四年度予算措置をし、今 窓口で納付した人の約半数が、



れているのか。

許取得事業費の対象者は選ば 平成二五年度一般会計補正予算 ■消防団員中型自動車運転免



消防ポン プ車

状況は。 ■庁舎耐震補強設計等委託の

ありかた等も含めて、検討を 後は、総務企画部で、両支所の している 検討資料を作成した。その

■基金の運用については。

利率のいい金融機関 いては見積もりを取って、あ る程度割り振りをした中で て運用をしている。 億円以上の高額資金につ

へ動かし

について 化協議会の設置に係る協議 駿東伊豆地区消防救急広域

り守りぬくには、消防の広域化 を推進する必要がある。 住民の安心・安全をしっか

た。 せ、取り組んでいくこととなっ 防救急広域化協議会」を発足さ 化に賛同した一二市町七消防 本部で新たな「駿東伊豆地区消 法定協議会設立に向け、広域

いく。取得希望者が多い場合、県 消防団の推薦という形をとって 初の試みで個人負担もあり、

は少し増やすことも検討する。 の補助の内容も見ながら、来年 より減額された約二一五〇万 |職員給料の減額支給措置に

円の具体的な使途は

出された財源は、防災・減災対 策に活用していくが、基金を る形で執行する。 つくって、皆さんの目に見え 減額支給措置によって生み 案を景観計画書に載せたい。

め地元との調整を、平成二六年

重点整備地区を設定するた

一月までに完了して、具体的な

ている。前年比で四

一%の増。

六三人で、二万三九一三人増え ○人、平成二四年度は八万二三

観計画策定の進捗状況は、

韮山反射炉周辺を含めた景

観光建

平成二四年度一般会計決算認定 |街路灯事業の管理形態について。

て管理を一本化していきたい。 れていない。今後は、防犯灯も含め 管理形態が旧町のままで統一さ



平成二四年度楠木及び天野揚 水場管理特別会計歳入歳出決

■揚水機場の場所と用途は、

業用水を送水している。 放水路より二~三〇〇メート ル下流にあり、江間地区に農 天野揚水機場は、大門橋の 楠木揚水機場は、墹之上の

水を送っている。 あり、ポンプで天野に農業用 |事として造られた。 ともに、江間堰の撤去補償

工事業者に発注している。

り韮山反射炉の入場者数は。

下の崖の途中に取り入れ口が

平成二三年度が、五万八四五

■世界遺産登録推進事業によ



宅の必要数とを検討した計

書を策定する予定。

天野揚水機場

韮山反射炉 平成二四年度簡易水道等 事業特別会計決算認定

管に係る基礎調査業務は。 ■エメラルド地区水道施設移

平成 一年計画で市に移管するために 一四年度は基礎調査を実施



エメ ラル タ

■優良林育成事業補助金の追加は。

個人、共有林ともに申請可。 補助金交付要綱に該当すれば で最大九割まで補助する。市の 間伐を実施する事業。県と市

■道路拡幅用地取得事業の内

剰余金の処分及び決算認定

容は。

一水道工事の発注先は。

平成二四年度上水道事業会計

来年度から工事執行の予定。 フェンスを線路側に寄せて 行する市道の測量、分筆登記 寺へ向かう伊豆箱根鉄道と並 南條の反射炉踏切から宗光

の口径の工事は、建設業者に

内規により二〇〇ミリ以上

発注。それ未満のものは、水道



増額補正。今後は、

反射炉踏切

費の二分の一を補助するもの。 近隣六施設の割引券発行、富 士山見学漁船ツアーの三事業 宿泊グレードアップ券発行、

狩野川団地

補助金は、

■宿泊施設緊急誘客対策事業



遠見の富士

作成手続に関する条例の制定 伊豆の国市地区計画等の案の

■地区計画とは。

について

め、計画的により良いまちへ かいまちづくりのルールを定 と誘導していくためのもの。 地区の特性に合ったきめ細

一決定の流れは。

い都市計画審議会に諮り決定 案を作り、公告及び縦覧を行 都市計画法に基づいて、原



福祉文教委員会

平成二四年度一般会計決算認定

一給食の民間委託は

わらない。 職であるため、献立内容は変 出ている。栄養士は県職や市 全安心な給食提供等の効果が 調理員の確保、経費削減、安

一アレルギー対象者は何人か。

中学校一一名。アレルギー疾患 射を該当校で保管。 シー症候群四名。エピペン注 人数は一二〇人。アナフィラキ 幼稚園児一五名、小学校四二名、 アレルギー食材除去食は

一病児保育の現状は、

南町・伊豆の国市が対象 市利用者一四六人。三島市·函 函南町平出クリニックで、本

しているが、現況は ■保育料等の引き下げ要望を

いが、市の負担増からも、どこま ○%である。さらに引き下げた て、本市の徴収金額は六〇~七 国の定める徴収金額に対し

で投資できるか検討中である。

相談が二倍以上になっているが。 ■家庭児童相談で、環境福祉の

きないなど家庭内の諸々の相 きない、学校への送り出しがで 養育能力不足、片付けがで

談が増えている。 |災害救急医療テント

二〇〇〇万円は。

張。投光機・発電機つき。 医療用ゴム製エアテント四 三〇畳ほどの空気漏れしな



災害救急医療

|歯・口腔の健康づくり事業は。

まだ高くない。 活発な活動をしている。しか も受けた。委員会も三部会で 事業で、県歯科医師会の視察 全国からも注目されている 、若い市民の意識レベルは

平成二四年度国民健康保険 特別会計決算認定

変えたことによる効果では。 ■収納率アップは、保険税率を

落ち込むことになった。 ば、決算で六五〇〇万円ほど たが、税率改正していなけれ 五〇〇万円ほど多めに計画し 前年度と比較計算して、六

■二億三八○○万円の余剰金は

期高齢医療保険に移動したため。 の改定幅が小さく、高齢者が後 びが少なく、一人当たり三万六 ○○○円ほどの減額。診療報酬 退職被保険者の医療費の伸

少ないのは。

平成二四年度後期高齢者医療 特別会計決算認定

かったのは時効だけか。 滞納繰越分の徴収できな

停止九人。 時効二三人、収入減等の執行 県外転出四人、死亡一二人、

平成二四年度介護保険特別 会計決算認定

■介護保険第五期の初年度で の余剰金は

は基金から繰り入れている。 ■平成二四年度の訪問介護予 をとって決定。一年目に余り 一年目がちょうどで、三年目

理由は。 日々雇いの保健師の分も含

■予防事業への男性の参加が

むため。

に計画したい。 り、男性が参加しやすいよう な時代が来ている。健康づくり 課・社会教育課等と連携を図 地域に介護予防事業が必要

平成二五年度一般会計補正予算

整備工事七〇万円は、 ■旧大仁東小学校野外炊事場

野外炊事場整備に伴う浄化

事業は以前からあったものか。 ■次世代育成支援行動計画推進 槽設置のため。

る子ども子育て支援事業の策定 法改正により五年を一期とす

介護保険料は三年間の平均

補正の内容は。

■ライフサポート事業の増額

が義務付けられたものである。

防事業実施件数が増えている

い合わせ、修理相談各一件など。

耳補聴器給付。保護者から問

新規事業で、二名の児童に両

①保育料引き下げの請願 委員会付託事項

げについて表明。本委員会で 今回は不採択。 果を静観して待ちたいとして 言があった。市当局の作業結 教育部長からも同じ内容の発 すでに市長・教育長が引き下 願の主旨には同意であるが 子育て支援推進を望み、請

②精神障害児医療給付意見書 を県知事に提出の陳情

族の痛みも考えたいとして採択。 齢で年金等での負担も厳しく家 り で配慮すべきだ。また、家族が高 障害の判定にばらつきがあ 、入院時にと限定しているの

閉会中の継続調査

調査の報告です。 各常任委員会の 八月議会終了後の

総務委員会

一調査内容 平成二五年七月一 一九日 調査日

ついて調査を実施した。 応方針や、災害時における に対する市の災害に対する対 容確認を行うとともに、それ 害想定の発表を受け、 に県から新たな第四次地震被 「FMいずのくに」の活用に 東日本大震災以降、 、その内 . 六月末

当市の防災計画の変更計 画や役割については。 被害想定を受けての

見えてきた。 今回の被害想定から課題として 域的な問題として、被災者を場 合によってはどう受け入れるか、 ないエリアに入っているが、広 想定の中では比較的被害が少

地域防災計画の修正を来年二月 を目途に行う計画である。 ことで、それを受け伊豆の国市 の公表が、秋に行われるという 第四次地震被害想定の第二次

が整っている。出資はしている 内の決済が済み締結をする準備 して履行されていく形になる。 が民間企業なので、契約を締結 書が無くてはできないのか。 20災害時の緊急放送は協定 協定書については、市役所



源氏山送信所 ついては。

観光建設委員会

3

■調査日

平成二五年七月三日

一調査内容

の現状については。 正に伴う大型宿泊施設等 進に関する法律の一部改 ■建築物の耐震改修の促

> 現 7

地を確認視察した。

が、前向きな姿勢で研究して 断や工事に係る負担について とが一番問題。実際の耐震診 耐震は大丈夫なのかというこ 者からは「お客様にとっては 豆長岡・大仁旅館組合の関係 いきたい」との意見が出た。 は、厳しい経営状況で大変だ 伊豆の国市観光協会及び伊

2 設建設候補地公募事業に 広域一般廃棄物処理施

なる」との説明を受けた。 意が見込める判断を区長がし 地権者の了解の上、地域の合 てもいい候補地があり、その た段階で応募するという形に 担当課より「公募は、応募し

> 五一号線改良工事現場)。 崩壊対策工事現場、 長瀬配水池、 担当者より説明を受け 現地視察 施設概要と現状につ 長岡急傾斜地 大一〇 V



大仁最終処分場

福祉文教委員会

調査日

平成二五年七月一八日 八月 Ł 日

■調査内容

育施設「エシカファーム」

ア、 2 教育関係の調査。 療育の実際などを視察 不登校児童生徒の実態 いじめに関する実情。

(最終処分場、 ウ、 学力テストの結果分析。

3教育施設視察

トイレ・給排水の全面改修 ことばの指導の実態。 大仁中学校のエコの効果。 韮山小学校大規模工事。 韮山南小学校通級指導教室

4福祉村内の諸施設視察。

業等の実態を視察。 がい者の介護、生活支援、 い苑 田方・ゆめワーク」「なぎの めワーク」「就労支援事業所 「ぬくもりの里」「田方・ゆ 「あおばの家」「もくせ 諸施設で、高齢者や障



なぎの家

ぽぽ」利用者の様子を視察。 **5**「子育て支援センターたん

平成25年第3回定例会は、9月5日から10月3日までの29日間の会期で行われた。条例の制定・改正9件、 補正予算7件、決算認定8件、議員発議の意見書の提出などが上程され、慎重に審議し原案どおり可決承認された。

議 案 笲

- ◆平成 25 年度伊豆の国市一般会計補正予算 (第5号)
 - 歳入歳出予算の総額に4億1,350万円を追加し、歳入歳出予算の総額を183億3,900万円とするもの。
- ◆平成 25 年度伊豆の国市特別会計補正予算

国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、楠木及び天野揚水場管理 特別会計、簡易水道等事業特別会計、下水道事業特別会計の6会計。

◆平成 24 年度伊豆の国市一般会計歳入歳出決算の認定について

歲入総額188億5.077万875円。歲出総額180億5.143万6.532円。歲入歲出差引額7億9.933万4.343 円。翌年度へ繰り越すべき財源 8.821 万 7.000 円。実質収支額 7 億 1.111 万 8.000 円で認定。

◆平成24年度伊豆の国市特別会計歳入歳出決算の認定について

国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、楠木及び天野揚水場管理 特別会計、簡易水道等事業特別会計、下水道事業特別会計、上水道事業会計の7会計。

◆その他

専決処分の報告3件、地区計画等の案の作成手続に関する条例、市職員の給与に関する条例の一 部改正、同給与の臨時特例に関する条例、市税外収入督促等に関する条例の一部改正、介護保険 条例の一部改正、都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部改正、都市計画下水道事業 受益者分担に関する条例の一部改正、道路占用料徴収条例の一部改正、市議会委員会条例の一部 改正、駿東伊豆地区消防救急広域化協議会の設置に係る協議など

◆委員会提案等

ホテル・旅館等建築物の耐震化の促進に関する意見書の提出について、地方税財源の充実確保を求 める意見書の提出について、重度障害者(児)医療費助成制度における精神障害者の適用改善に関 する意見書の提出について



12月議会の予定

11/29叠·····初 \Box

12/ 2月……一般質問初日

12/19届……最 終 \Box

い

わ

ħ

7 国

る信甲で濃

武ぶの

信に国岳だの

登

り

分水 に

嶺

武

蔵

0)

〇〇八年

0)

月

0)



委 員 員長長 鈴杉佐梅内柴 委だ 員よ 木尾野原田田 会り 照利之秀隆三 久 治 一 宣 久 子

委副委

ました。 ゆ 7 化遺 きて、 暮ら もない過ぎし日の思い出 うく 雄 に楽しみまし Щ 大で美し 0) 頂 産 美 ŋ しの煩わしさを全て忘れ か 本当に良かっ になることなど知 流れる時間を何も考 5 い富士 見 る 夕暮 「苦労し 山 が後 れ た 0) と日 て登っ 富 [です。 るよ 士 れ 常 山

Щ もあります かさを楽しむ束の には冬がやっ 山 +が冬化粧する前 月は秋の深まり てきます。 間の 紅葉の 季節 も

で

編 後 記